

ArcGIS10 に対応するための『ArcGIS8 で地域分析入門』の追補版

2012年6月5日初版

2013年6月16日第2版

この度は『ArcGIS8 で地域分析入門』をご購入いただき、ありがとうございます。本書で解説している ArcGIS8 の使い方のうち、ArcGIS10 との使い方の違いは次のとおりです。

I .「第3章 ArcMap の操作の基本」(pp.31 ~ 49)

ページ	本書の記述	ArcGIS10 に対応した内容
p.33 など	テーブル オブ コンテンツ	[コンテンツ]ウィンドウ
p.44 7行	2 .「テーブル結合とリレート」「テーブル結合」をクリック 「テーブル結合とリレート」をポイントし、「テーブル結合」をクリックしてください。	2 .「属性の結合とリレート」「結合(J) ...」をクリック 「属性の結合とリレート」をポイントし、「結合(J) ...」をクリックしてください。
p.45 最終行	上部の「ファイルの場所」のところにある をクリックして、見本データをコピーしたローカルディスク(C:またはD:など)をクリックします。	「フォルダに接続」ボタンをクリックして、見本データをコピーしたローカルディスク(C:または D:など)をクリックして、「追加」ボタンをクリックします。
p.46 10行	7 .「OK」ボタンをクリック 「テーブル結合」ダイアログ・ボックス(図 3.13)の「OK」ボタンをクリックします。	7 .レコードの保持の仕方を選ぶ 「すべてのレコードを保持」を選び、「結合」ダイアログ・ボックス(図 3.13)の「OK」ボタンをクリックします。「結合しようとしているテーブルの結合フィールドには、インデックスがありません。結合フィールドにインデックスを構築しますか。」と質問されますが、「いいえ」ボタンをクリックしてください。

II .「第4章 様々な地図表現で地域の傾向を知る」(pp.50 ~ 85)

ページ	本書の記述	ArcGIS10 に対応した内容
p.59 4行	図 4.6 の「レイヤプロパティ」ダイアログ・ボックス内の「配色(C)」というボックスの右にある をクリックして、配色を選択します。	図 4.6 の「レイヤプロパティ」ダイアログ・ボックス内の「カラーランプ(C)」というボックスの右にある をクリックして、カラーランプを選択します。
p.65 最終行 p.84	演算式は正常に	条件式は正常に

5 行		
p.76 21 行	一番上の「ファイルの場所」というボックスの右ある をクリックして、見本データをコピーしたローカルディスク (C:または D:など) をクリック	「フォルダに接続」ボタンをクリックして、見本データをコピーしたローカルディスク (C:または D:など) をクリックして、「追加」ボタンをクリックします。
p.83 20 行 21 行	「チャートを重複させない(R)」	「チャートをオーバーラップさせない(R)」

III. 「第 5 章 レイヤ プロパティとラベル付け」(pp.86 ~ 99)

ページ	本書の記述	ArcGIS10 に対応した内容
p.89 15 行	「定義検索」と書いてある	「フィルタ設定」と書いてある
p.90 23 行	「消去」ボタンをクリックし、	キーボードの BackSpace キーなどで削除し
p.92 2 行 ~ p.93 13 行	「ラベル」ボタンの使い方	第 5.4 節「ダイナミック・ラベル」の方法でラベルを書いてください。
p.94 7 行	「ラベル配置オプション(P)」	「配置プロパティ(P)」
p.99 10 行	演算式は正常に	条件式は正常に

IV. 「第 6 章 検索と集計」の一部 (pp.97 ~ 118)

ページ	本書の記述	ArcGIS10 に対応した内容
p.98 8 行 p.100 25 行	「新しい選択セットの作成」	「新規選択セットの作成」
p.101 最終行 ~ p.102		後述のとおり差し替え
p.103 7 行	メニュー・バーの「表示」	メニュー・バーの「カスタマイズ」

p.103 11行 22行	「フィーチャ選択」	「四角形によるフィーチャの選択」
p.104 12行	[図形描画]ツール・パレットをクリックして現れる[新規円]ボタンをクリックしてください。	メニュー・バーの「カスタマイズ」をクリックし、ツールバーをポイントして、図形描画をクリックします。こうして現れる[図形描画]ツール・パレットの[円]ボタンをクリックしてください。
p.107 2～10行	メニュー・バーの「選択(S)」をクリックし、「選択可能レイヤの設定」をクリックします(図6.2)。～「閉じる」ボタンをクリックします。	[コンテンツ]ウィンドウの「選択状態別にリスト」ボタンをクリックします(図6.2)。第6.2節の方法で建物レイヤのみを選択可にしてください。
p.110 21行 p.115 20行 p.118 16行	「個別サンプル値」または「個別値」と表示されている欄から	「個別サンプル値」ボタンをクリックし、数字が表示された欄から
p.111 5行～ p.112		後述のとおり差し替え
p.116 5行～ p.118		後述のとおり差し替え

V. 101 ページ最終行～102 ページ最終行の差し替え

101 頁最終行「メニューバーの「選択(S)」をクリックし」以降を次のように読み替えてください。

[コンテンツ]ウィンドウの「選択状態別にリスト」ボタンをクリックします(図6.2)。

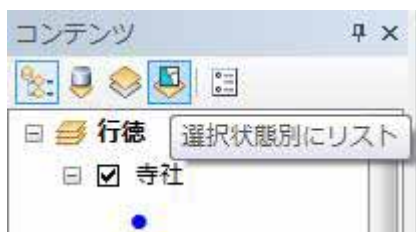


図 6.2 選択可能レイヤの設定

図 6.3 のように、レイヤ毎に選択可 / 選択不可を切り替えられるウィンドウになります。レイヤ名の横にあるボタンをクリックして、選択可 / 選択不可を切り替えます。選択可のレイヤは「選択可」に、

選択不可のレイヤは「選択不可」に分けて表示されます。ここでは寺社レイヤのみ選択可にしてください。[コンテンツ]ウィンドウの表示を元に戻したいときは、「描画順にリスト」ボタン（「選択状態別にリスト」ボタンと同じ並びにある最も左のボタン）をクリックします。

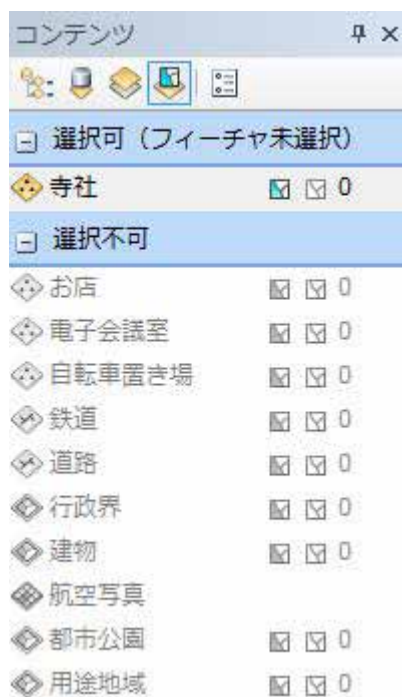


図 6.3 選択可能レイヤの設定

VI . 111 ページ 5 行 ~ 112 ページの差し替え

111 頁 5 行「4 . 選択に用いるレイヤを指定する」以降を次のように読み替えてください。

4 . 「新規選択セットの作成」を選択する

「選択方法(M)」の下のボックスの をクリックし、「新規選択セットの作成」をクリックします。

「現在の選択セットに追加します」と「現在の選択セットから絞り込み選択します」の意味は、第 6.1 節で前述のとおりです。

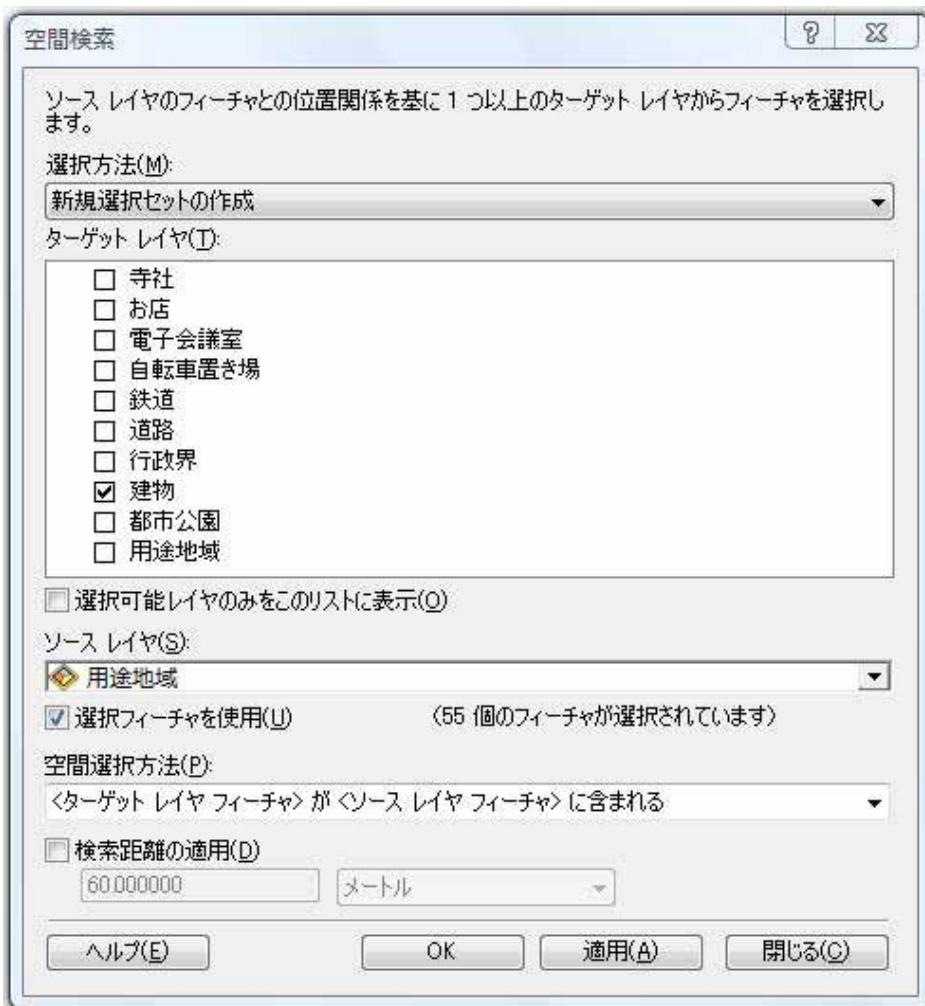


図 6.11 「空間検索」ダイアログ・ボックスでの「に含まれる」の設定

5. 選択の対象となるレイヤを指定する

ターゲットレイヤ(T)というボックスの中の建物レイヤのみにチェックマークをいれます。

6. 選択に用いるレイヤを指定する

ソースレイヤ(S) の下のボックスの をクリックして、用途地域を選びます。さらにその下の「選択フィーチャを使用(U)」の左のチェックボックスにチェックをいれます。こうすることにより、用途地域レイヤで選択されている第 1 種中高層住居専用地域を使って、フィーチャ(図形)を選択することになります。

7. 空間選択方法を選択する

空間選択方法の欄の をクリックして、「<ターゲットレイヤフィーチャ>が<ソースレイヤフィーチャ>に含まれる」をクリックしましょう。なおここには次のような他の種類もあります。

と重なる

選択に用いるレイヤのフィーチャ(第1種中高層住居専用地域)が横切るか、またはその中にある建物が選択されます。

から一定の距離内にある

「から一定の距離内にある」を選択した場合は、距離を指定します。距離の単位は、データフレーム・プロパティで設定された単位です。見本データの場合にはメートルです。この方法の応用例は第8.2節を参照してください。

を含む

に含まれる

選択に用いるレイヤのフィーチャ(第1種中高層住居専用地域)に含まれる建物が選択されます。

に完全に含まれる

選択に用いるレイヤのフィーチャ(第1種中高層住居専用地域)に完全に含まれる建物が選択されます。

の境界に接する

選択に用いるレイヤのフィーチャ(第1種中高層住居専用地域)の境界線に接するフィーチャが選択されます。

と線分を共有する

選択に用いるレイヤのフィーチャ(第1種中高層住居専用地域)と線分を共有しているフィーチャが選択されます。

を横切る

選択に用いるレイヤのフィーチャ(第1種中高層住居専用地域)の境界線が横切っているフィーチャが選択されます。

の重心が<ソースレイヤフィーチャ>内にある

選択に用いるレイヤのフィーチャ(第1種中高層住居専用地域)の中に、重心があるフィーチャが選択されます。

8. 選択を実行する

「検索距離の適用(D)」にはチェックをいれずに、「適用」ボタンをクリックして、選択を実行します。「閉じる」ボタンをクリックして、「空間検索」ダイアログ・ボックスを閉じます。第6.1節で前述した「検索条件の設定」ダイアログ・ボックスの「現在の選択セットからの絞込選択」により、ここで選択した第1種中高層住居専用地域内の建物の選択セットの中から、さらに共同住宅("Use"=2)のみを選択することもできます。

VII . 116 ページ 5 行 ~ 118 ページ 7 行の差し替え

116 頁 5 行「4 . 選択に用いるレイヤを指定する」以降を次のように読み替えてください。

4 . 「新規選択セットの作成」を選択する

「選択方法(M)」の下のボックスの をクリックし、「新規選択セットの作成」をクリックします。

5 . 選択の対象となるレイヤを指定する

ターゲットレイヤ(T)というボックスの中の用途地域レイヤのみにチェックマークをいれます。

6 . 選択に用いるレイヤを指定する

ソースレイヤ(S) の下のボックスの をクリックして、用途地域を選びます。さらにその下の「選択フィーチャを使用(U)」の左のチェックボックスにチェックをいれます。

7 . 空間選択方法を選択する

空間選択方法の欄の をクリックして、「<ターゲットレイヤフィーチャ>が<ソースレイヤフィーチャ>の境界に接する」をクリックします。このように選択に用いるレイヤとフィーチャ選択対象のレイヤを同じにして、「の境界に接する」をクリックすると、隣接するフィーチャ(図形)が選択されます。

8 . 選択を実行する

「検索距離の適用(D)」にはチェックをいれず、「適用」ボタンをクリックします。商業地域と、商業地域に隣接する用途地域とが強調表示されます。「閉じる」ボタンをクリックして、「空間検索」ダイアログ・ボックスを閉じます。

9 . 選択の元となった商業地域を選択から除く

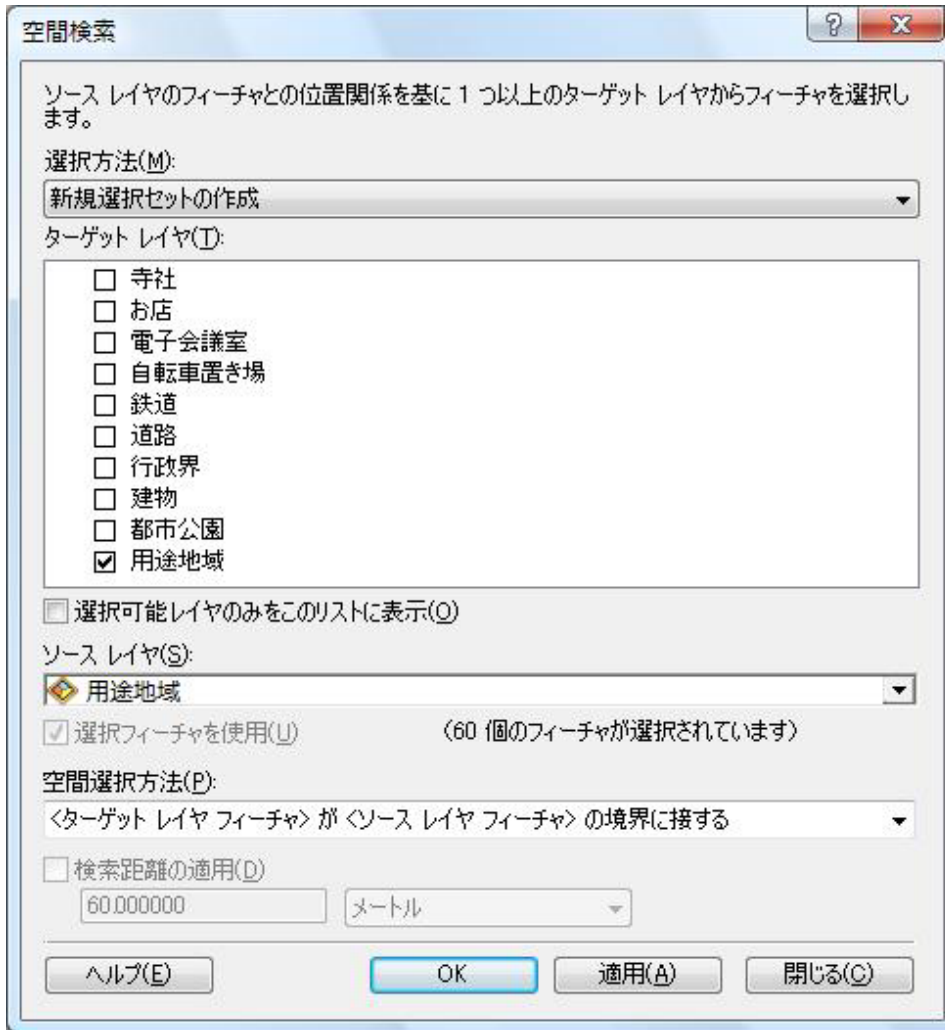




図 6.13 「空間検索」ダイアログ・ボックスで「の境界に接する」の設定


VIII . 119 ページ 21 行 ~ 133 ページ 18 行の差し替え

ページ	本書の記述	ArcGIS10 に対応した内容
p.119 21 行	テーブル オブ コンテンツ	[コンテンツ]ウィンドウ
p.119 26 行	2 .「テーブル結合とリレート」「テーブル結合」をクリック 「テーブル結合とリレート」をポイントし、「テーブル結合」をクリックしてください。	2 .「属性の結合とリレート」「結合 ...」をクリック 「属性の結合とリレート」をポイントし、「結合 ...」をクリックしてください。
p.120 最終行	このレイヤとテーブル結合するためのレイヤを選択	結合対象レイヤを選択
p.121 7 行	「2:テーブル結合」の下にある選択肢のうち「各ポリゴンに、そのポリゴン内に完全に含まれるポリゴンの属性を与えます。ひとつ以上のポリゴンが入る場合、最初に検索された	「2.結合オプション」の下にある選択肢のうち「各ポリゴン内に完全に含まれる結合対象ポリゴンの属性を、レイヤの属性に追加します。候補が 2 つ以上存在するときは、最初に

	ものだけが結合されます。」の左にある をクリックします。	検知されたポリゴンの属性を使用します」の左にある をクリックします。
p.121 13行	「テーブル結合」ダイアログ・ボックス(図 6.14)の「3:テーブル結合の結果は新しいレイヤに保存されます」	「結合」ダイアログ・ボックス(図 6.14)の「3.作業後のデータは新規レイヤに保存されます」
p.125 2行	属性テーブルの右下にある「オプション」	属性テーブルの左上にある「テーブルオプション」
p.127 4行	メニュー・バーの「表示」	メニュー・バーの「カスタマイズ」
p.128 6行	属性テーブルのウィンドウの右下の「オプション」ボタンの右に  が表示され、	属性テーブルの下に  が表示され
p.131 9 ~ 30 行	「フィールド演算」をクリックし、~ pArea.Area	「ジオメトリ演算」をクリックします。プロパティが「面積」になっていることを確認して、「OK」ボタンをクリックします。
p.132 4 ~ 18 行	「フィールド演算」ダイアログ・ボックスを表示し、~ pPnt.x (y 座標のときは pPnt.y)	追加したフィールド名を右クリックして「ジオメトリ演算」をクリックします。プロパティが「重心の x 座標」になっていることを確認して、「OK」ボタンをクリックします。同様にして y 座標も計算します。
p.132 23 行 ~ p.133 18 行	「フィールド演算」ダイアログ・ボックスを表示し、~ pCurve.Length	追加したフィールド名を右クリックして「ジオメトリ演算」をクリックします。プロパティが「長さ」になっていることを確認して、「OK」ボタンをクリックします。

IX . 138 ページ 9 行 ~ 160 ページ 15 行の差し替え

ページ	本書の記述	ArcGIS10 に対応した内容
p.138 9 行	余白の部分で右クリックし、「ページ設定」	余白の部分で右クリックし、「ページ設定/印刷設定」
p.138 11 行	「マップサイズ」の「プリンタと同じ」	「プリンタの用紙設定を使用」
p.141 9 行 p.149 22 行	メニュー・バーの「ツール」メニューをクリックし、「オプション」をクリックします。「アプリケーション」タブをクリックして、	メニュー・バーの「カスタマイズ」をクリックし、「ArcMap オプション」をクリックし、「一般」タブをクリックし、
p.146 29 行	「North Arrow 選択」	「方位記号 選択」

p.147 2行		
p.148 5行 7行 11行 p.149 1 ~ 2 行	「Scale Bar 選択」	「縮尺記号選択」
p.158 7行	「東京測地系」	「日本測地系」
p.158 10行	「座標はルートデータを格納するための M 値を含む」と「座標は 3D データを格納するための Z 値を含む」	「M 値を含む座標(ルートデータ格納に使用)」と「Z 値を含む座標(3D データ格納に使用)」
p.159 16行	メニュー・バーの「表示」	メニュー・バーの「カスタマイズ」
p.160 7 ~ 15 行	[エディタ]ツールバーの「タスク：」の右のをクリックし、「新規フィーチャ作成」をクリックします。～「新規フィーチャ作成」ツール  をクリックします。	シェープファイル station に対して編集することを明示するため、「フィーチャ作成」ダイアログの中の station をクリックします。「エディタ」ツールバーの「ポイント」ボタンをクリックします。

X . 161 ページ 28 行 ~ 163 ページ 19 行の差し替え

161 頁 28 行「3 . 選択に用いるレイヤを指定する」以降を次のように読み替えてください。

- 3 . 「新規選択セットの作成」を選択する
「選択方法(M)」の下のボックスの をクリックし、「新規選択セットの作成」をクリックします。
- 4 . 選択の対象となるレイヤを指定する
ターゲットレイヤ(T)というボックスの中の行政界レイヤのみにチェックマークをいれます。
- 5 . 選択に用いるレイヤを指定する
ソースレイヤ(S) の下のボックスの をクリックして、station を選びます。「選択フィーチャを使用(U)」は使用できないようになっています。Station.shp にはポイントを一つしか作成しなかったため、属性検索をしなかったからです。
- 6 . 空間選択方法を選択する

空間選択方法の欄の をクリックして、「<ターゲットレイヤフィーチャ>が<ソースレイヤフィーチャ>から一定距離内にある」をクリックします（他の種類の選択方法については第 6.4 節参照）。

7. 選択を実行する

「検索距離の適用(D)」にチェックをいれ、その下の左側のボックスに「500」と半角の数字で入力します。その右のボックスの をクリックして、「メートル」をクリックします。「適用」ボタンをクリックすると、駅から 500 メートル以内にある街区が選択されます。「閉じる」ボタンをクリックして、「空間検索」ダイアログ・ボックスを閉じます。

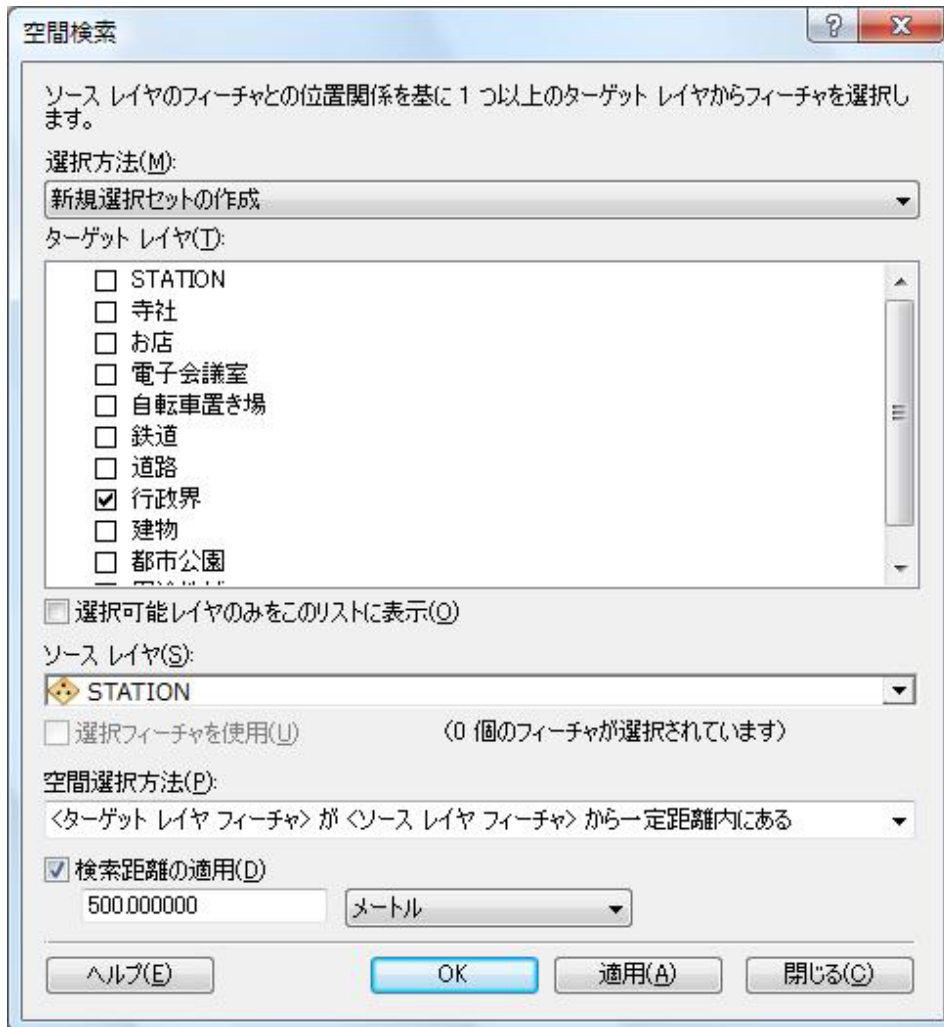




図 8.6 「空間検索」ダイアログ・ボックスでの「から一定距離内にある」の指定

XI . 164 ページ 30 行 ~ 180 ページ最終行の差し替え

ページ	本書の記述	ArcGIS10 に対応した内容
p.164 30 行 p.169	「オプション」	属性テーブルの左上にある「テーブルオプション」

22 行 p.170 1 行		
p.165 1 行	「レイヤのエクスポート」	「データのエクスポート」
p.166 20 行	属性テーブルの右下にある「オプション」	属性テーブルの左上にある「テーブルオプション」
p.167 2 行	属性テーブルのウィンドウの右下の「オプション」ボタンの右に  が表示され、	属性テーブルの下に  が表示され
p.167 9 行	「+」ボタンをクリックします。タイプを文字列として右のボックスから「Format」をクリックします。「フィールド」の欄から [NUM1] をクリックします。Format とは、数値型である NUM1 フィールドを文字型に変換するという意味です。下のボックスには [LABEL] + Format([NUM1]) と入力されているはずですが。	「&」ボタンをクリックします。「フィールド」欄から [NUM1] をクリックします。下のボックスには [LABEL] & [NUM1] と表示されているはずですが。
p.169 1 行	「テーブル結合とリレート」をポイントし、「テーブル結合」をクリックしてください。	「属性の結合とリレート」をポイントし、「結合…」をクリックしてください。
p.169 14 行	「OK」ボタンをクリックします	「すべてのレコードを保持」を選び、「結合」ダイアログ・ボックスの「OK」ボタンをクリックします。「結合しようとしているテーブルの結合フィールドには、インデックスがありません。結合フィールドにインデックスを構築しますか。」と質問されますが、「いいえ」ボタンをクリックしてください。
p.169 25 行	「新しい選択セットの作成」	「新規選択セットの作成」
p.170 5 行	「Text File」	「テキストファイル」
p.180 最終行	[標準] ツールバーの「ツール」メニューをクリックし、「XY データ追加」をクリック	メニューバーの「ファイル」, 「データの追加」, 「XY データの追加」をクリック

XII . 「10.3 行政界のディゾルブ」の一部 (pp.190 ~ 192)

190 頁 23 行「1 . ツールメニューをクリックし、ジオプロセッシングウィザードをクリックする」以降を次のように読み替えてください。

1. ディゾルブを始める

ArcMap を起動し、「はじめに」ダイアログ・ボックスでマップ GYOUTOKU.MXD を開きます。

アイコン「ArcToolbox ウィンドウ」(赤い工具箱のアイコン)をクリックし、「データ管理ツール」の左にある+をクリック、「ジェネラライズ」の左にある+をクリック、「ディゾルブ(dissolve)」をダブルクリックします。


2. ディゾルブに必要な項目を指定する

ダイアログ・ボックスが現れたら、以下のように指定します。

(1) 入力フィーチャ

ボックスの右にある をクリックして、「行政界」を指定します。

(2) 出力フィーチャクラス

参照ボタン  をクリックして、ディゾルブされた新しいシェープファイルの保存先(「読み取り専用」でないフォルダを指定してください)とファイル名を指定します。「保存」ボタンをクリックします。

(3) ディゾルブフィールド(オプション)の指定

「MATI」フィールドのチェックボックスをクリックして選択します。行政界レイヤの各街区ポリゴンの「MATI」フィールドには、町丁を示すコード番号が入力されています。

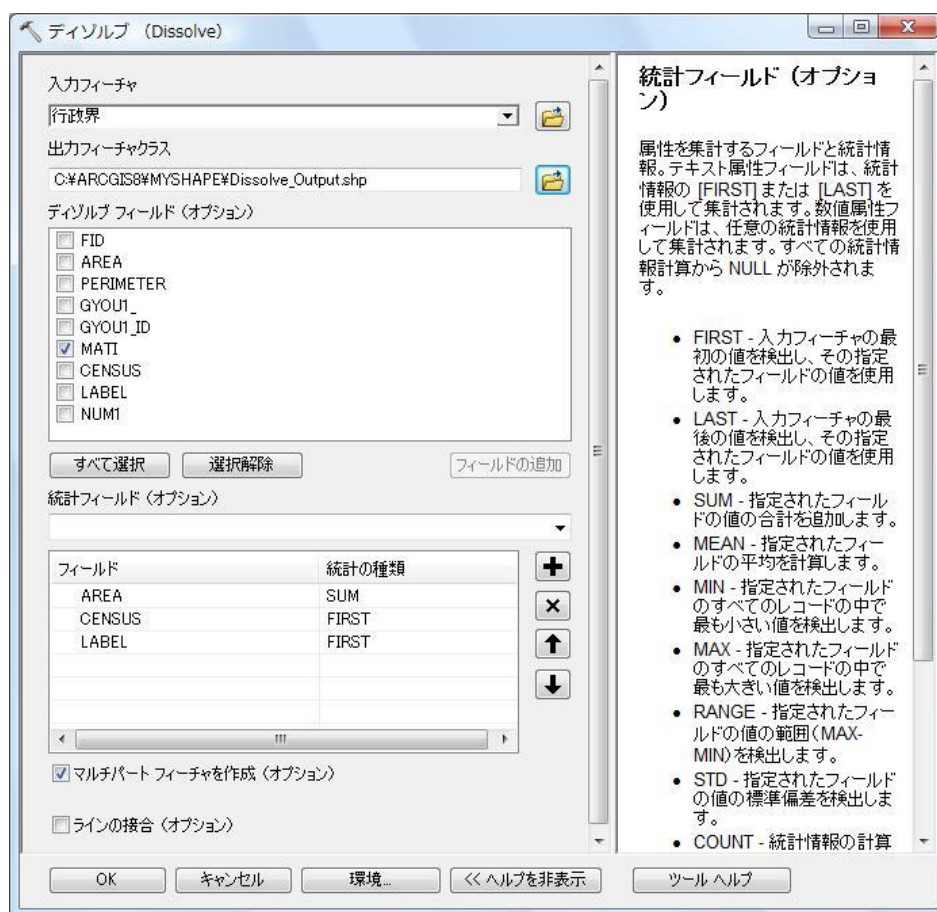



図 10.5 ディゾルブ

(4) 出力ファイルに追加するフィールドを指定する

「統計フィールド (オプション)」ボックスの右にある  をクリックして、「AREA」フィールドを選択すると、下欄の表に「AREA」が表示されます。下欄の表のうち「AREA」の行の「統計の種類」の列のセルをクリックして、「SUM」を選びます。これは、入力フィーチャの AREA を同じ町丁のポリゴンで合計して、出力フィーチャの「SUM_AREA」フィールドとすることを意味します。

同様に、次のように指定してください。

Census フィールド FIRST

Label フィールド FIRST


「OK」ボタンをクリックします。ディゾルブが正常に実行されたことを知らせるメッセージのダイアログが現れたら、その「閉じる」ボタンをクリックします。

(5) 出力ファイルを表示する

出力ファイルがレイヤとして追加され、[コンテンツ]ウィンドウに現れます。出力ファイルのチェックボックスをクリックしてチェックをつけると、そのレイヤがマップ表示領域に表示されます。

[コンテンツ]ウィンドウで出力ファイルを右クリックし、「レイヤの全体表示」をクリックします。そのレイヤ中のすべてのフィーチャ (図形) が表示されるような縮尺で地図が表示されます。

[コンテンツ]ウィンドウで出力ファイルを右クリックし、「プロパティ」ボタンをクリックすると、「レイヤプロパティ」ダイアログ・ボックスが現れます。「シンボル」タブをクリックして、適当なシンボルに変更し、「OK」ボタンをクリックして、出力ファイルを分かりやすく表示してください。

[コンテンツ]ウィンドウで出力ファイルを右クリックし、「 属性テーブルを開く」をクリックして、属性テーブルを開きます。Sum_Area というフィールドには、ディゾルブされる前のポリゴンの Area フィールドの数値を合計した数値が格納されています。

ページ	本書の記述	ArcGIS10 に対応した内容
p.193 28 行	「テーブル結合とリレート」をポイントし、「テーブル結合」をクリックしてください。	「属性の結合とリレート」をポイントし、「結合 ...」をクリックしてください。

XIII 「11.1.バッファリングによる街区公園の誘致距離圏レイヤの作成」の一部 (pp.202 ~ 205)

ページ	本書の記述	ArcGIS10 に対応した内容
p.202 9 行	「個別サンプル値」または「個別値」と表示されている欄から	「個別サンプル値」ボタンをクリックし、数字が表示された欄から

203 頁 1 行「3 .「バッファウィザード」によるバッファの作成」以降を次のように読み替えてください。

3 . バッファを始める


ArcToolbox ウィンドウが表示されていないときには、アイコン「ArcToolbox ウィンドウを表示 / 非表示」(赤い工具箱のアイコン)をクリックして、それを表示します。

「解析ツール」の左にある + をクリック、「近接」の左にある + をクリック、「バッファ(Buffer)」をダブルクリックします。


4 . バッファに必要な項目を指定する

ダイアログ・ボックスが現れたら、以下のように指定します。


(1) 入力フィーチャ

ボックスの右にある  をクリックして、「都市公園」を指定します。


(2) 出力フィーチャクラス

参照ボタン  をクリックして、バッファを発生させた新しいシェープファイルの保存先(「読み取り専用」でないフォルダを指定してください)とファイル名を指定します。「保存」ボタンをクリックします。

(3) バッファの距離の指定

「距離単位」の左のトグルボタンをクリックして、指定します。誘致距離である 250 を半角の数字でキーボードから入力します。その右のボックスにある  をクリックして、「メートル」をクリックします。

(4) ディゾルブタイプ (オプション) の指定

 をクリックして、「NONE」を選びます。後述する「BUFF_DIST」フィールドを作成するためです。「OK」ボタンをクリックします。バッファが正常に実行されたことを知らせるメッセージのダイアログが現れたら、その「閉じる」ボタンをクリックします。

(5) 出力ファイルを表示する

出力ファイルがレイヤとして追加され、[コンテンツ]ウィンドウに現れます。出力ファイルのチェックボックスをクリックしてチェックをつけると、そのレイヤがマップ表示領域に表示されます。

[コンテンツ]ウィンドウで出力ファイルを右クリックし、「レイヤの全体表示」をクリックします。そのレイヤ中のすべてのフィーチャ (図形) が表示されるような縮尺で地図が表示されます。

[コンテンツ]ウィンドウで出力ファイルを右クリックし、「プロパティ」ボタンをクリックすると、「レイヤプロパティ」ダイアログ・ボックスが現れます。「シンボル」タブをクリックして、適当なシンボルに変更し、「OK」ボタンをクリックして、出力ファイルを分かりやすく表示してください。





なお添付の見本データ内にこのようにして保存したファイルが収録されています。ローカルディスク:¥arcgis8¥mytable フォルダ内に Buffer_of_都市公園.shp というファイル名でコピーされているはずです。



図 11.2 バッファ

XIV . 「11.2. 町丁界レイヤと街区公園誘致距離圏レイヤとのオーバーレイ」の一部 (pp.206 ~ 228)

ページ	本書の記述	ArcGIS10 に対応した内容
p.206 12 行	属性テーブルの右下にある「オプション」	属性テーブルの左上にある「テーブルオプション」
p.209 25 行		
p.211 19 行		
p.217 19 行		
p.227 3 行		
p.228 21 行		

p.206 24行 p.227 21行	[エディタ]ツールバーの「ターゲット：」の右の  をクリックし、町丁界レイヤをクリックします。編集を開始すると、属性テーブルのウィンドウの右下の「オプション」ボタンの右に  が表示され、	シェープファイル町丁界に対して編集することを明示するため、「フィーチャ作成」ダイアログの中の町丁界レイヤをクリックします。編集を開始すると、属性テーブルの下に  が表示され
p.208 1行~ p.209 14行		後述のとおり差し替え
p.209 22行	BufferDist	BUFF_DIST
p.210 10行	[エディタ]ツールバーの「ターゲット：」の右の  をクリックし、オーバーレイ結果のレイヤをクリックします。	「フィーチャ作成」ダイアログの中のオーバーレイ結果のレイヤをクリックします。
p.210 23行	[人口密度]	「Dissolve_(半角数字)」
p.213 13行 16行	BufferDist	BUFF_DIST

208 頁 1 行「3 . ジオプロセッシングウィザードによるオーバーレイ」以降を次のように読み替えてください。

3 . ユニオンを始める



ArcToolbox ウィンドウが表示されていないときには、アイコン「ArcToolbox ウィンドウを表示 / 非表示」(赤い道具箱のアイコン)をクリックして、それを表示します。

「解析ツール」の左にある + をクリック、「オーバーレイ」の左にある + をクリック、「ユニオン(Union)」をダブルクリックします。

4 . ユニオンに必要な項目を指定する


ダイアログ・ボックスが現れたら、以下のように指定します。

(1) 入力フィーチャ

入力フィーチャのボックスの右にあるをクリックして、第 10.3 節で行政界レイヤを Mati フィールドに基づいてディゾルブした町丁界レイヤを選択します。もう一度をクリックして、前節の出力ファイルである街区公園の誘致距離圏レイヤを選択します(添付の見本データ内に前節のようにして作成し

たファイルが収録されています。ローカルディスク:¥arcgis8¥myshape フォルダ内に Buffer_of_都市公園.shp というファイル名でコピーされているはずです。

(2) 出力フィーチャクラス

参照ボタン  をクリックして、ユニオンによるオーバーレイ結果の出力ファイルを保存するドライブ、フォルダ（「読み取り専用」ではないフォルダを指定してください）ファイル名を指定し、「保存」ボタンをクリックします。

(3) 結合する属性（オプション）

入力フィーチャである、ディゾルブした町丁界レイヤと街区公園の誘致距離圏レイヤの双方の属性がすべて出力フィーチャに継承されるようにするため、ここでは ALL を選択します。

「OK」ボタンをクリックすると、出力ファイルが[コンテンツ]ウィンドウに現れます。ユニオンが正常に実行されたことを知らせるメッセージのダイアログが現れたら、その「閉じる」ボタンをクリックします。

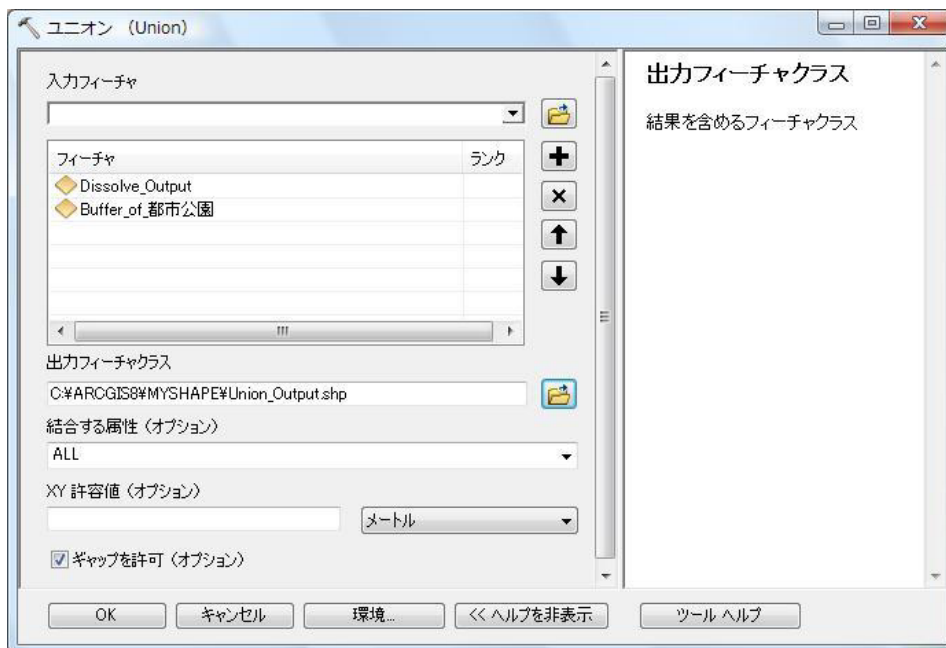


図 11.7 ユニオン